

令和3年度第3回釧路市地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日時	令和4年3月23日（水） 14:00～15:00
場所	釧路市交流プラザさいわい
出席委員	25名 欠席8名
事務局	3名
オブザーバー	2名（うち代理出席1名） 欠席1名

1 開会

2 議事

(1) 令和4年度事業計画（案）について 資料1

(2) 令和4年度収支予算（案）について 資料2

・事務局より説明
～質疑なし～

(3) 音別線（コミュニティバス）及び仁々志別線（あいのリタクシー）における乗降場所の追加について 資料3

・事務局より説明
～質疑あり～

（風呂谷委員）

・ 仁々志別線については、中々利用者数が伸びていないという現状がありますので、利便性を上げ、利用者数を増やしていきたいと考えております。

（冷川委員）

・ 今回新たな施設がオープンするということもございましたので、ここをある程度、利用促進の目的からも、バス停を追加した上で、より効果的な利用促進をしていきたいと考えております。

3 その他

(1) くしろバス株式会社より報告 資料4

- ・事務局より説明後、下記のとおり、くしろバス(株)及び阿寒バス(株)より発言

(事務局)

- ・ 資料4について、ご説明をいたします。こちらの資料は、くしろバス及び阿寒バスの平成29年度から令和3年度までの運送収入及び輸送人員を合算したグラフとなっております。
- ・ 各年度の集計については、前年度の10月から当該年度の9月までで1年という形でカウントをしております。
- ・ このグラフをご覧くださいますと、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が本格的となった令和2年度以降、両社の運送収入及び輸送人員が大きく落ち込んでいることが分かるかと思えます。
- ・ 令和3年度は、令和元年度と比較して、運送収入で2割5分の減少、輸送人員で約2割の減少となっております。
- ・ このような厳しい落ち込みの中、くしろバス(畑毛委員)様より、現在の状況に関して協議会においてご説明をしたいとお話をいただいたところであります。
- ・ それでは、畑毛委員お願いいたします。

(畑毛委員)

- ・ 事務局からご説明のあったとおり、コロナ禍以降、今年度まで16%ぐらい収入が落ち込んでいます。急激に落ち込んだものですから、いわゆる赤字額が相当額発生いたしました。
- ・ この状況でいけば、特に釧路市内で完結する路線については、維持が困難となってくる可能性が非常に高いです。今年度だけでなく、来年度以降も利用状況・収入状況が復活するということは非常に厳しいものと考えております。
- ・ 特に、釧路市内で完結する路線、いわゆる単独補助路線については、改善することが非常に厳しい状況です。一方、国・道の補助路線については、100%赤字額を埋めていただいているので、今のところは問題ないかと思うのですが、単独補助路線については、厳しい状況となっておりますので、ぜひ皆さまの知恵を貸していただきたいと考えております。よろしくをお願いいたします。

(事務局)

- ・ 資料4については、阿寒バス様の運送収入・輸送人員も含まれていますので、阿寒バスの須田委員様からもお話をいただけますでしょうか。

(須田委員)

- ・ 弊社の生活交道路線につきましては、阿寒線などの観光的要素の高い路線もありますが、コロナ禍の影響をまともに受け、打つ手が無い状況です。
- ・ 弊社の乗合事業の運送収入に占める釧路市にかかる部分は、全体の 54%となっております。このうち、一部路線を除いて赤字路線となっておりますが、釧路市様、沿線自治体様の手厚いご支援により、路線の維持確保でできている状況にあります。
- ・ 一方、少子化等による人口減少により、運送収入の減少が懸念され、負担軽減のため費用削減すると、現在の運行回数の維持が難しくなることが予想されることから、皆さまとともに、路線の維持確保に向けて、ご協議していただきますようよろしくお願い申し上げます。
- ・ なお、国・道の補助要綱と釧路市様の補助要綱に差が出てきている状況にありますので、そこも改善に向けたご審議をいただければと思っています。
- ・ なお、令和3年度の運送収入につきましては、令和元年度と比べますと、51%の減収となっております。引き続き、よろしくお願いいたします。

(秋里会長)

- ・ ただいま、くしろバス様と阿寒バス様から、非常に厳しい現状のご報告をいただいたところであります。コロナという原因がありながらも、利用者の落ち込みというのがこれまでにないものであり、コロナが落ち着いたとしてもすぐに利用者が戻ってくるかについては、非常に厳しい状況であるとの見解を持っているとのこと。
- ・ いずれにしても、コロナ禍においては、人の移動を制限するというこれまでにない制約が加わったものであります。この期間は当然、その制約を受けるわけではありますけれども、いわゆるニューノーマルになったときにどれだけ利用が戻ってくるのかというのも大事な視点だと思っています。
- ・ 本日、岸先生にもお越しいただいております。両バス会社様の状況を踏まえながら、全道各地での色々なご経験もお持ちでございますので、もし何かご発言ありましたら、お願いしたいと思います。

(岸委員)

- ・ 厳しい状況だというのは皆さん重々承知の上で、今後どうするかというときに、畑毛委員からの話を聞いていると、「国・道の補助路線は補助金によって赤字を埋められるけれども、市の単独補助路線は厳しい」ということは、市からお金を出してほしいという話になってしまうなど感じました。しかし、そうはいかないのが今のご時世です。
- ・ では、釧路市がお金を出してくれないならバス路線の撤退、減便というような話になるのだと思います。
- ・ そのときに、この協議会の中で議論しなければならないのは、実際にどれだけ困る

人が居るのかだとか、減便・廃止した際は運輸収入も減るわけですから、どちらが損得なのか分からないと、議論ができないと思います。

- ・ これから厳しい議論が始まってくるかと思うのですが、どこまでデータに基づいて議論できるかという点が重要になってくると思います。
- ・ 例えば、減便だったら、ある時間帯の便数を減らすとなったときに、実際に何人の人が困ってしまうのかだとか、困る人がいても、もしかしたら我慢してもらうという選択肢もあるかもしれないし、他の手段でサポートするかもしれない。結局は、対処療法的なところでいうと、そういう話になってくるのだろうなと思いました。
- ・ 一方で、コロナ禍が落ち着くかどうかは、まだ何とも言えないのですけれども、一度外出しなくなった人たちをどうやって外出させるかというところは、感染対策を配慮しながらやっていくしかないかなと思います。
- ・ それは、バス事業者さんが頑張ったとしても無理な話で、経済界とか、あるいは商業、公共施設など、地域のまちづくりの活動と連動してやっていかないと、バスだけ走らせても、行き先がないと利用者は増えないのだろうなと思います。
- ・ 十勝バスさんは、目的地を自分たちで作ろうとしていて、それに対して公共交通を連動させるという仕掛けで進めているのが、素晴らしいと思います。
- ・ あそこまでの真似をしたらどうですか、というつもりはないのですが、目的地と連携するという点はすごく参考になるのではないかなと思います。

(秋里会長)

- ・ コロナ禍という影響を受け、厳しい状況にある一方で、これをデータに基づいて、どうやって正確に皆さんと共通認識を持つかが重要であり、また、利用増に向けては地域の色々な方からの協力を結集しないと、バス会社さんだけでは難しいなというところもお話をいただいたところでもあります。
- ・ 目的地をどうやって作っていくか。乗る目的や乗る理由、どこへ行くのか、そこで何をするのか。こういったことを一緒になって考えていくということが、本当に大事になってくるのだと思います。
- ・ 乗り方を教えていくことやキャッシュレス化などの利便性を上げることも大事ですけれども、やはり目的がないと、中々乗ることに繋がらないのだろうと思います。

(宮下委員)

- ・ 質問です。資料4を見ますと、大きく減収しているのが分かりますが、実際、どのお客さんの層が乗らなくなったのでしょうか。その内訳を教えてくださいたいです。

(畑毛委員)

- ・ くしろバスだと、市内の路線バスの運行が多くて、やはり通学・通勤・通院などに

については、大きい減少はないのだと思います。それ以外の、高齢者だとか日常生活の部分で、大きく減少しているのかなと思っております。

- ・ ただ、先ほど岸先生がおっしゃられたように、そういったデータをきちんととりながら、どういったことが大きく原因にあるのか、改善できる部分があるのかなどについては、会社内でしっかりと議論をして、この協議会の場でデータを出せるような仕組みを作っていきたいと思っています。
- ・ だが、私たちとしては、コロナにより想像以上の減少をしていたものですから、これが大きく、赤字額を埋められないということになっています。正直言って、赤字額を埋められないと、我々は株式会社なものですから、維持したくてもできない、かなり厳しい現状があるなと思っています。

(須田委員)

- ・ 阿寒バスだと、路線バス事業については、乗合事業と貸切事業があります。このうち、乗合事業の中には、「市内線」「ローカル線」「定期観光路線」「都市間路線」の大きく4つのカテゴリーに分けられています。
- ・ この中で大きく減少しているのは、都市間バスと空港連絡バスです。あとは、先ほど申し上げたように阿寒線が減少しています。このグラフのとおり、平成29年から令和元年にかけては少し上がり気味に推移していました。これは、阿寒線は12月から3月くらいまではインバウンド利用が90%以上というような状況にありまして、伸びてきていた状況にありますが、コロナでぱったりとなくなりました。
- ・ あとは、人流がないところでいえば、空港連絡バスの落ち込みもかなり激しいです。その他は鶴居線です。鶴居線も、近年はインバウンド需要で、鶴見台に行く外国人が多かったのですが、これも令和2年度以降パッタリといなくなりました。
- ・ 現在、輸送量は国の基準を全く満たしていない状況にあります。

(平澤委員)

- ・ やはり、今のダイヤに基づいて、この便にはどれだけの利用者が乗っているのかですとか、可能であれば、どこの停留所で乗る方が多いのか、どこの停留所で降りる人が多いのかといったようなデータを確認したうえで、慎重に検討していただく必要があると思います。
- ・ バスの利用増には目的地をというお話がありましたが、国土交通省にて、観光関係の予算を活用いたしまして、交通事業者と観光系の業者さんとがタイアップして、実証運行であるとか、企画乗車券を作るなどに掛かる経費の一部を補助する事業も令和4年度展開していく予定です。こういった補助事業の活用も検討した方が良いと思います。

(岸委員)

- ・ 次年度以降、事務局と相談していくこととなると思いますが、ちょっと抜本的に分析し直してみたいなと思うことがあります。
- ・ 現状、バスを使っている人のデータしか見ていなくて、釧路市も広範に広がっていますので、どこの地域の人たちの利用が多いのかという点をもう一度見直さなければならぬなと思っています。
- ・ 地域に人が少ないから利用者が少ないというのは分かるのですが、人が多いのにバスの利用者が少ないというのは、何か原因があるはずです。
- ・ 要するに、積極的に公共交通を使っている地域と、公共交通に見向きもしない地域というのは、おそらくあるのだと思います。そこを細かく見ていけば、高齢者、特に独居老人が増えているような地域だったら、誰かが送ってあげなければいけないという時代はすぐに来ると思う。では、そのような人たちがいるのに、公共交通が利用されていないのは何故なのだろうとか、それなりに利用されているのだとかが見えてくるのだと思います。
- ・ それは、市役所の都市計画のデータが必要だと思います。本来あるべき話は、環境に配慮してとか、安全に配慮してだとか、あるいは、公共交通を地域の皆さんが自分たちで守るということで、車が運転できても公共交通を利用してほしいなというのは、個人的には思うのですが、中々強制は難しいというのは、ずっと私は思っていることです。
- ・ しかし、公共交通を使わなければいけない人はそれなりにいるはずで、将来の人口推移で見れば、この地域は人口がこれくらいになっていくだろうというのはあって、そことのミスマッチみたいなのももしバス路線であるのであれば、改めてそこは検討しなければいけないのかなと思います。
- ・ ここの部分は、過去、路線再編を検討する際、そこまで議論できていなかった部分だと思います。今まで、利用状況ばかりを見てきた気がします。そこは、自分自身の反省点でもあります。
- ・ 市民の中で、車を使っている人たちがどれだけいるのかというのも見えていく必要があります。また、ここの地域はもう利用者がいないのに、一生懸命利用促進をやってもあまり成果はでないということも見えてくるのではないかなと思います。
- ・ 繰り返しになりますが、バス事業者さんだけのデータではなくて、都市計画的なデータをもう一度分析しなければいけないなと思っております。

(秋里会長)

- ・ 非常に分かりやすい説明だったと思います。データに基づいて議論をしていくことは重要であると。ただ、どうしても私たちは「〇〇線は乗っているよね」「〇〇線は乗っていないよね」というところから議論が始まってしまうわけですが、潜在的な需要

というのでしょうか。人が多いけれども使われていないというのは、何かそこに使われない理由があるのかもしれない。そういった原因を抑えていって、潜在的なところが顕在化して、結果「じゃあ乗ってみよう」となったときに、乗り方が分からない場合は、そのカバーが必要なのだと思います。

- ・ そういった施策を打つためにも、データの分析を多面的に調べていく必要があるのではないかとご指摘だったかなと思っております。
- ・ 今、大変厳しい状況だということは分かってまいりました。ただ、この公共交通を慎重な議論をして、何とか継続していきたいという地域の思いはあると思います。その議論を深めるためには、その議論に足るデータというか潜在的な需要といいますか、目的地を作れるのかだとか、そのようなことについて、建設的な議論をしていくことが必要なのだと思います。
- ・ 今日、お集まりの方々は公共交通の大事さを人一倍知っておられる方ばかりだと思います。当然、バス会社さんも日頃からご尽力されて、何とか路線を守りたいけれどもかなりの課題もあるということも、切ないですが言わざるを得ないこともあると思います。そしてこれは避けられない課題だろうと思います。
- ・ そういった意味では、今後とも継続して、この協議会の中で議論をさせていただきたいと思うわけであります。先ほど、岸先生からお話がありましたけれども、どんなデータがあるか、どんな需要があるか、そういったところの状況の数値を事務局含めて、準備をさせていただきながら、この協議会で建設的な議論に繋げていければなと思っております。

(事務局)

- ・ 次回の協議会開催は、5月下旬から6月上旬を予定しております。近くなりましたら、改めてお知らせいたします。

4 閉会

(秋里会長)

- ・ 以上を持ちまして、「令和3年度第3回釧路市地域公共交通活性化協議会」を終了いたします。
- ・ 本日は、新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置解除後、間もない状況でありながら会議にご出席いただき、感謝申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。